

# 高校生・大学生の道徳への意識調査

小柴 孝子<sup>1</sup>  
村瀬 公胤<sup>2</sup>  
武田 明典<sup>3</sup>  
土田 雄一<sup>4</sup>

## 要 旨

本研究では、道徳教育についてどのような意識を持っているのか、また道徳についてどのような意識を持っているのかの2つの視点で、2017年6月～8月に高校生・大学生のアンケート調査を実施した（有効回答 2,237 名）。調査内容は、1) 社会に出て役立つ道徳の授業について、; 2) 道徳の内容項目についての大切さの意識と実践についてである。結果からは、“学習者”側からの視点による道徳の授業のニーズ、因子分析により「連携と連関」、「授業の工夫」、「調べ学習」、「ICTの活用」、「教材の選択」の5個の因子の抽出、道徳的価値の大切さと自己評価のギャップについての散布図では、特徴的な傾向が見られた。

キーワード：高校生、大学生、道徳の授業、道徳意識

---

<sup>1</sup> Takako KOSHIBA 神田外語大学  
<sup>2</sup> Masatsugu MURASE 麻布教育研究所  
<sup>3</sup> Akenori TAKEDA 神田外語大学  
<sup>4</sup> Yuuiti TUTIDA 千葉大学

## 1. 問 題

文部科学省による2017年3月の新学習指導要領の告示により、児童生徒の主体的・対話的な深い学び、社会に開かれた教育課程、そして、カリキュラム・マネジメントが重視された。また、2015年度の小学校学習指導要領の改正に伴い、道徳は“特別の教科道徳”として評価を伴う“教科”となった。改訂後の道徳科の目標として、小学校学習指導要領(2015)によると、「よりよく生きるための基礎となる道徳性を養うため、道徳的諸価値観についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる(p.13)」と定義づけている。

道徳教育の充実の背景では、文部科学省「今後の道徳教育の改善・充実方策について」(2013)における道徳の現状として、1)歴史的経緯による道徳教育自体への忌避、2)道徳の目指す理念の共通理解の欠如、3)教員の指導力の問題、4)学校行事などに振り替えられるなど他教科に比べて軽んじられてきた現状の4点が指摘された。同報告書は、1)グローバル社会における児童生徒が主体的に考える問題解決能力が求められる社会への突入、2)児童生徒の自己肯定感の低さや社会参画意識の低下、3)いじめ問題の対応の必要性などにより、学校教育における道徳教育の果たす役割がさらに重要になっていることを指摘している。

文部科学省教科調査官の浅見(2017)は、実際の道徳授業の展開において、“主体的な学び”、“対話的な学び”、“深い学び”の3つの視点についての重要性を解説し、これまでにありがちであった「主題や狙いの設定が不十分な単なる生活体験の話し合い；読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導；望ましいと思われていることを言わせたり書かせたりすることに終始する指導(p.27)」に陥らぬ授業を展開することを主張している。

また、これまではなかった“評価”に関し、前述、小学校学習指導要領では、数値評価ではない記述式評価；個人内評価；個々の内容項目の評価ではなく全体

的評価；調査書には記載しないなど、他教科とは異なった評価方法であることを示している。また、土田・松田(2017)は、児童生徒自身による“自己評価”の重要性、つまり、自己を見つめ振り返る機会を教師が設けさせることが重要とする。

以上から、道德教育は大学教職課程においても再検討の時期を迎えている。ここで、小柴ら(2017)の道德教育に関する 902 名の教員を対象とした小・中学校教員のニーズ調査では、道德を教授する小・中学校の現職教員の道德に対する認知について、1)道德の授業をする上での難しい点；2)現在の道德の授業について；3)道德教育で子どもたちに育てたい力；4)道德の授業力を高めるための必要性；5)これからの道德教育；6)大学教職課程の教育に期待することについて、検討を行った。主な結果は、1)小学教員では、「発問」、「意見の交流」、「指導方法」で、中学は、「資料を探す」、「指導方法」、「発問」の順；2)小・中学ともに約 80%の教員が現在の道德の授業を“不十分”であると認知；3)小・中学ともに、「善悪の判断・自立・正直・誠実・自由と責任」、「親切・思いやり・感謝」、「生命の尊さ」の3群の順；4)小学では、「達人の授業参観」、「先輩の授業の参観」、「学級経営の充実」で、中学は、「達人の授業参観」、「先輩の授業の参観」、「校内研究」の順；5)因子分析を行い、35 項目、3 因子（Ⅰ多様なアプローチ；Ⅱねらいにせまる授業；Ⅲメディアの活用）を抽出し、第Ⅱ因子では、1%水準で優位さがみられ（小学＞中学；女性＞男性）、また、第Ⅰ・Ⅲ因子は、若手がベテラン教員よりも 1%水準で有意に高い；6)「具体的な指導方法・多様な指導方法」、「道德授業の参観や実体験」、「道德教育の研究や開発」の順であった。

本研究は、この“教授者”である教師側からの視点で行った小柴らの先行研究の結果を踏まえ、“学習者”である、高校生や大学生に対しての類似した調査を行うことにより、立体的に道德教育のニーズを把握することが可能になり、道德教育に関する指導法や課題点が明らかにする。

## 2. 目 的

本研究の目的は、高校生・大学生の道德や道德の授業についてアンケート調査を行うことにより、道德教育についてどのような意識を持っているのか、また道德についてどのような意識を持っているのかを明らかにすることを目標とした。

## 3. 方 法

### 3. 1 調査対象者および調査時期・方法

調査対象者は A 県内高等学校 2 校の 1 年生から 3 年生、大学 4 校の 1 年から 4 年生 2,720 名（高校生 1,997 名、大学生 723 名）であった。回収した調査用紙から、1)校種、学年、性別などのフェースシート箇所に欠落のある物、2)調査用紙の一部が未記入の物、調査用紙の選択した数字が全て同じものなど何れかに該当した調査用紙を除き、2,237 名（小学校 1,641 名、中学校 596 名）を分析対象とした。

調査時期は 2017 年 6～8 月であった。調査方法としては、質問紙(Table 1, 2)を各学校で配布・実施・回収を行った。

### 3. 2 調査質問紙の構成

調査対象者の学校種、学年、および性別を問うフェースシートに加え、以下、2つの質問項目に対して回答を求めた。

（1）「社会に出て役立つ道德の授業について、どのような内容や授業方法がふさわしいと考えますか」

東京学芸大学の道德教育に関する小・中学校の教員を対象とした調査(2012)を参考に前年度に作成した道德教育の教職員のニーズ調査の質問項目を生徒用に修正して、1.「そう思わない」から、5.「そう思う」までの 5 件法で回答を求めた(Table 1)。

**Table 1 道德の授業についてふさわしい内容や授業方法の質問項目**

---

1	NHK などの道德番組を使う
2	ウェビング、ランキング（個人やグループの考えや学びを整理したり、まとめるための指導法）などを取り入れる
3	エンカウンターやソーシャルスキルなど、人間関係を良好にする心理教育を取り入れる
4	学級の人間関係の問題を取り入れる
5	各教科や総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図る
6	新聞記事やニュースなどの報道を使う
7	都道府県や市町村などの資料を使う
8	子どもの調べ学習などを取り入れる
9	いじめなどの現実の問題に対応する
10	子どもが討論する学習を取り入れる
11	1 時間ずつだけでなく複数時間をつなげた指導をする
12	パソコンやインターネットで教材作成や資料の収集をする
13	授業中の資料提示などにパソコン等の ICT を使う
14	授業の実施への保護者の協力を得る
15	ネット上のルールや情報モラルの指導を充実する
16	「私たちの道德」を使う
17	学期別や月ごとにテーマを決めて重点的な学習をする
18	問題解決的な授業にする
19	役割演技（ロールプレイ）などの学習を取り入れる
20	郊外の体験学習などを取り入れる
21	担任以外の教職員も授業に参画する
22	性的マイノリティの理解などの現代的課題を取り上げる
23	ビデオなどの映像資料を使う
24	外部からゲストティーチャーを招いて授業をする

---

（2）「あなたは以下に示す考え方や生き方について、A. どのくらい大切だと思うかと B. どのくらい自分ができているかについて教えてください」

東京学芸大学の成人の道德性と子どもの頃の体験に関する調査報告書(2014) (以下「成人の道德性に関する調査報告書」と表記)の「道德の内容項目についての大切さの意識と実践についての自己評価」を参考にして、「内容項目を大切だと思うか」を、1.「大切にない」から、5.「大切である」までの5件法で回答を求めた。また、「自分ができているか」を、1.「できていない」から、5.「できている」までの5件法で回答を求めた(Table 2)。

**Table 2 道德の内容項目**

---

1	自主、自律、自由と責任
2	節度、節制
3	向上心、個性の伸長
4	希望と勇気、克己と強い意志
5	真理の探究、創造
6	思いやり、感謝
7	礼儀
8	友情、信頼
9	相互理解、寛容
10	遵法精神、公德心
11	公正、公平、社会正義
12	社会参画、公共の精神
13	勤労
14	家族愛、家庭生活の充実
15	よりよい学校生活、集団生活の充実
16	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
17	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
18	国際理解、国際貢献
19	生命の尊さ
20	自然愛護
21	感動、畏敬の念
22	よりよく生きる喜び

---

## 4. 結 果

調査の結果を以下に記す。

### 4. 1 調査対象者の概要

調査対象者の学校種・学年、性別を Table 3, 4, 5, 6 に示す。

**Table 3 高校生の学年別人数**

	件数	割合
高校 1 年生	598	36.4%
高校 2 年生	515	31.4%
高校 3 年生	528	32.2%
合計	1,641	100.0%

**Table 4 高校生の性別人数**

	件数	割合
女性	812	49.5%
男性	829	50.5%
合計	1,641	100.0%

**Table 5 大学生の学年別人数**

	件数	割合
大学 1 年生	208	34.9%
大学 2 年生	204	34.2%
大学 3 年生	129	21.6%
大学 4 年生	55	9.2%
合計	596	100.0%

**Table 6 大学生の性別人数**

	件数	割合
女性	359	60.2%
男性	237	39.8%
合計	596	100.0%

### 4. 2 社会に出て役立つ道徳の授業について

高校生と大学生の道徳の授業のニーズについて検討する (Figure1)。

共通してニーズが高かったのは、項目 10「子どもが討論する学習を取り入れる」、項目 9「いじめなどの現実の問題に対応する」、項目 15「ネット上のルールや情報モラルの指導を充実する」、項目 23「ビデオなどの映像資料を使う」であった。

共通して低かったのは項目 14「授業の実施への保護者の協力を得る」、項目 16「私たちの道徳を使う」、項目 4「学級の人間関係の問題を取り入れる」であった。

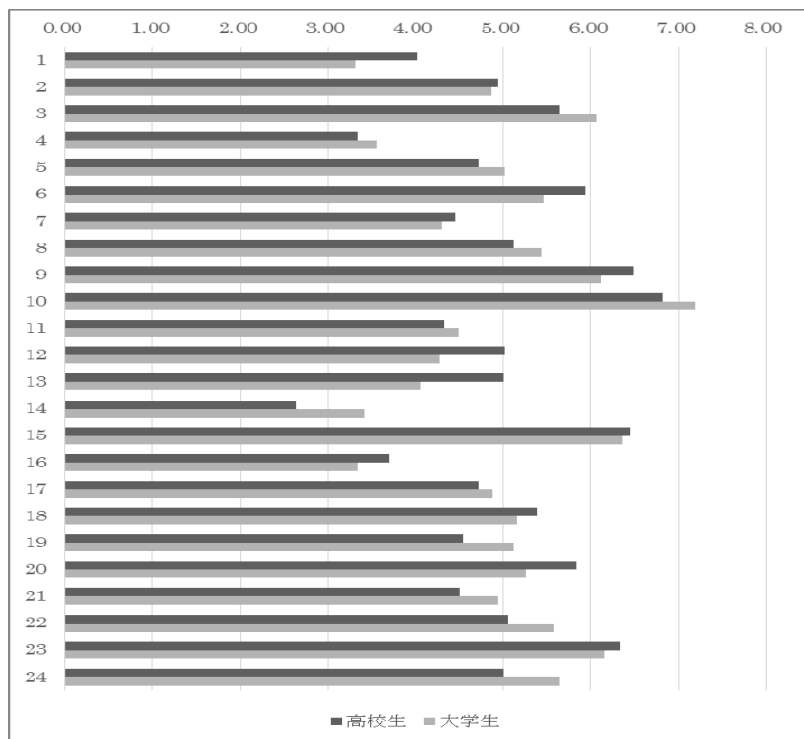


Figure 1. 高校生・大学生の道徳の授業についてのニーズ

#### 4. 3 社会に出て役立つ道徳の授業についての因子分析

社会に出て役立つ道徳の授業について、どのような内容や授業方法がふさわしいと考えますか」の 24 項目で質問し、因子負荷量が、0.3 未満の 1 項目を削除して、最尤法プロマックス回転で因子分析を行い、5 因子を得た(Table 7)。



Table 7 道德の授業にふさわしい内容や授業方法因子のパターン行列

	因子				
	1 連携と 連関	2 授業の 工夫	3 調べ 学習	4 ICT の 活用	5 教材の 選択
道德 21	<b>.824</b>	-.079	-.021	.008	-.121
道德 24	<b>.635</b>	-.016	.001	.005	.055
道德 14	<b>.511</b>	-.112	.025	.023	.193
道德 20	<b>.508</b>	-.025	.089	.007	.028
道德 22	<b>.485</b>	.209	-.049	-.012	-.031
道德 19	<b>.429</b>	.265	-.036	-.041	-.044
道德 17	<b>.409</b>	.127	-.088	.072	.198
道德 11	<b>.385</b>	.136	.174	-.046	-.126
道德 23	<b>.324</b>	.034	.099	-.006	.251
道德 10	.036	<b>.866</b>	.005	.013	-.258
道德 3	-.041	<b>.570</b>	-.017	-.039	.214
道德 2	-.189	<b>.555</b>	.049	.046	.250
道德 9	.047	<b>.505</b>	-.087	.022	.132
道德 18	.281	<b>.339</b>	-.022	-.019	.087
道德 15	.216	<b>.305</b>	.088	.059	.000
道德 4	.089	<b>.301</b>	-.015	-.146	.242
道德 12	-.008	.012	<b>.892</b>	-.014	.007
道德 13	.055	-.052	<b>.760</b>	.001	.046
道德 7	-.032	-.079	-.025	<b>1.064</b>	.004
道德 6	.058	.118	.005	<b>.480</b>	.032
道德 8	.148	.259	.098	<b>.318</b>	-.027
道德 1	-.142	.039	.075	.020	<b>.652</b>
道德 16	.173	-.035	-.057	.027	<b>.588</b>

第1因子は、「連携と連関」。第2因子は、「授業の工夫」。第3因子は、「調べ学習」。第4因子は、「ICTの活用」。第5因子は、「教材の選択」と名付けた。

#### 4. 4-1 高校生・大学生の道徳の内容項目の大切さ：上位5項目、下位5項目

質問紙（2）で高校生・大学生が回答した道徳の内容項目の大切さについて、上位5項目をTable 8に、下位5項目をTable 9に挙げる。

**Table 8 大切に思う道徳の内容項目：上位5項目**

高校生		大学生	
道徳の内容項目	割合	道徳の内容項目	割合
1 思いやり、感謝	81.5%	思いやり、感謝	86.2%
1 礼儀	81.5%	礼儀	81.4%
3 生命の尊さ	69.8%	生命の尊さ	77.3%
4 友情、信頼	68.9%	自主、自律、自由と責任	76.0%
5 自主、自律、自由と責任	68.6%	友情、信頼	74.0%

高校生と大学生の道徳の内容項目の大切さの意識について検討した。大切であると回答した割合が高い上位5項目は、高校生が、〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈生命の尊さ〉〈友情、信頼〉〈自主、自律、自由と責任〉の順であった。

大学生は、〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈生命の尊さ〉〈自主、自律、自由と責任〉〈友情、信頼〉の順であった。上位3項目は、高校生と大学生とも同じ順位であった。

大切であると回答した割合が低い下位5項目は、高校生が、〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉〈我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〉〈真理の探究、創造〉〈遵法精神、公德心〉〈社会参画、公共の精神〉であった。

大学生もほぼ同じで、高校生の〈遵法精神、公德心〉と大学生の〈勤労〉以外は、内容項目が共通している。

**Table 9 大切に思う道德の内容項目：下位 5 項目**

高校生		大学生	
道德の内容項目	割合	道德の内容項目	割合
1 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	31.6%	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	32.0%
2 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	32.1%	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	33.1%
3 真理の探究、創造	36.4%	社会参画、公共の精神	37.2%
4 遵法精神、公德心	39.4%	勤労	39.8%
5 社会参画、公共の精神	39.5%	真理の探究、創造	40.3%

#### 4. 4-2 高校生・大学生の道德の内容項目の自己評価：上位 5 項目、下位 5 項目

高校生・大学生が回答した道德の内容項目の自己評価について、上位 5 項目を Table 10 に、下位 5 項目を Table 11 に挙げる。

**Table 10 道德の内容項目の自己評価：上位 5 項目**

高校生		大学生	
道德の内容項目	割合	道德の内容項目	割合
1 生命の尊さ	26.7%	生命の尊さ	42.1%
2 友情、信頼	26.1%	思いやり、感謝	32.7%
3 思いやり、感謝	25.1%	礼儀	31.7%
4 礼儀	25.0%	家庭愛、家庭生活の充実	31.5%
5 家庭愛、家庭生活の充実	24.9%	友情、信頼	31.4%

できていると回答した割合が高い上位 5 項目は、高校生が、〈生命の尊さ〉〈友情、信頼〉〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈家族愛、家庭生活の充実〉であった。大学生は、〈生命の尊さ〉〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈家族愛、家庭生活の充実〉〈友情、信頼〉であった。高校生と大学生ともできている内容項目が共通している。高校生と大学生ともできている内容項目の最上位に「生命の尊さ」を挙げている。大学生の方が「できている」と回答された割合が高い傾向にあった。

できていると回答した割合が低い下位 5 項目は、高校生が、〈国際理解、国際貢献〉〈自主、自律、自由と責任〉〈真理の探究、創造〉〈社会参画、公共の精神〉〈節度、節制〉〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉の順であった。

大学生も、ほぼ内容項目が共通している。高校生の〈国際理解、国際貢献〉と大学生の〈社会参画、公共の精神〉は自己評価が最下位である。

**Table 11 道徳の内容項目の自己評価：下位 5 項目**

高校生		大学生	
道徳の内容項目	割合	道徳の内容項目	割合
1 国際理解、国際貢献	5.5%	社会参画、公共の精神	8.1%
2 自主、自律、自由と責任	6.1%	自主、自律、自由と責任	8.6%
3 真理の探究、創造	6.7%	真理の探究、創造	9.7%
4 社会参画、公共の精神	7.1%	節度、節制	10.2%
5 節度、節制	7.4%	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	11.2%
5 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	7.4%		

#### 4. 5 道徳的価値の大切さと自分のギャップ

高校生・大学生が回答した道徳の内容項目の大切さと自己評価のギャップについての散布図を挙げる。2 つの平均値から、横軸を大切、縦軸を実践にして、左

下：大切に思わないし、自分もできていない、左上：大切に思わないが、自分  
はできている、右下：大切に思うが、自分もできていない、右上：大切に思い、自  
分もできているの4つのカテゴリーに分けた。

全体の散布図によると(Figure 2)、「大切に思い、自分もできている」には、〈思  
いやり、感謝〉〈礼儀〉〈生命の尊重〉〈友情、信頼〉〈家族愛、家庭生活の充実〉  
〈相互理解、寛容〉〈自然愛護〉が分布された。

「大切に思うが、自分もできていない」には、〈自主、自律、自由と責任〉〈向  
上心、個性の伸長〉〈希望と勇気、克己と強い意志〉が分布された。

「大切に思わないが、自分もできている」には、〈感動、畏敬の念〉〈よりよい  
学校生活、集団生活の充実〉〈公正、公平、社会主義〉が分布された。

「大切に思わないし、自分もできていない」には、〈勤労〉〈遵法精神、公德心〉  
〈社会参画、公共の精神〉〈真理の探究、創造〉〈国際理解、国際貢献〉〈郷土の伝  
統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉〈我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態  
度〉が分布された。

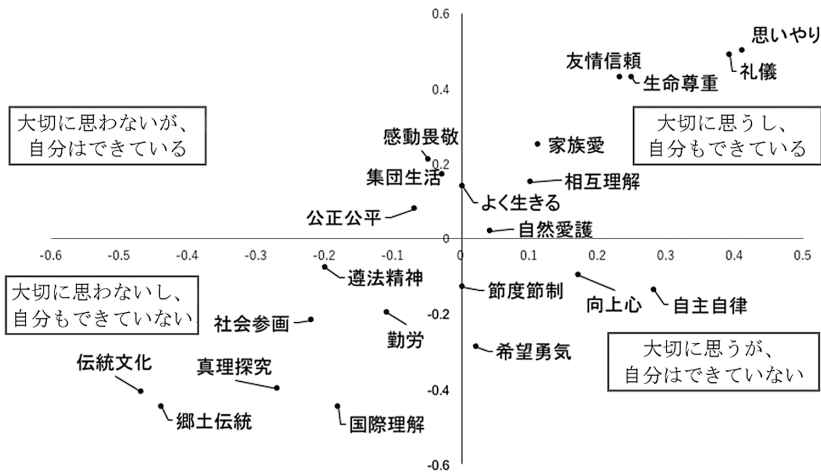


Figure 2. 道德的価値の大切さと自分のギャップ(全体)

高校生の散布図(Figure 3)を検討してみると、「大切に思い、自分もできている」の〈礼儀〉と〈思いやり、感謝〉が同じくらいの位置にあり、大学生と違うところである。

〈自主 自律 自由と責任〉〈向上心 個性の伸長〉は、大切に思っているけど、なかなか実践できないという傾向にあり、〈よりよく生きる喜び〉は、「大切に思わないが、自分ではできている」に分布された。

〈我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〉〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉〈国際理解、国際貢献〉は、「大切に思わないし、自分もできていない」に分布されている。

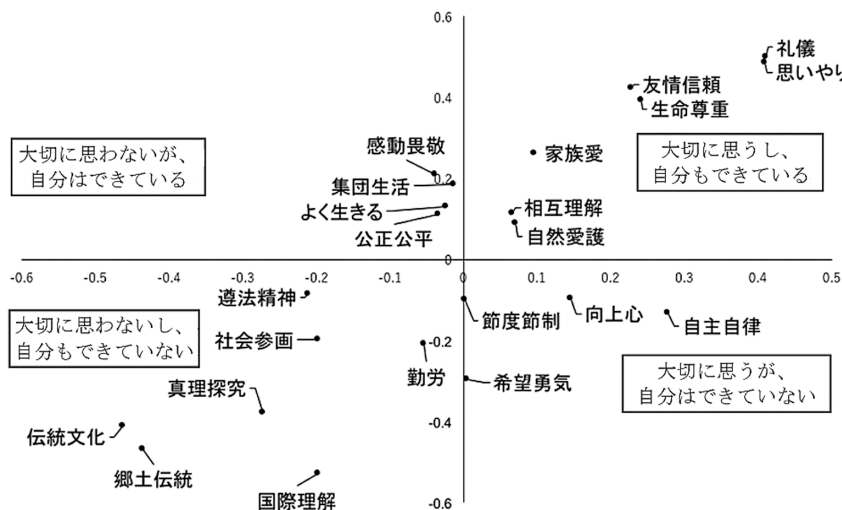


Figure 3. 道徳的価値の大切さと自分のギャップ(高校生)

大学生の散布図(Figure 4)を高校生から大学生へ発達の視点で検討すると、〈生命の尊重〉は、大学生になると実践の数値が上昇する。〈相互理解、寛容〉〈国際理解、国際貢献〉は、同じカテゴリーの分布であるが、大学生になると大切と

実践の数値が上昇している。〈よりよく生きる喜び〉は、「大切に思わないが、自分はできている」の分布から、「大切に思うが、自分ではできていない」に移行している。反面、〈自然愛護〉は、「大切に思い、自分もできている」の分布から、「大切に思わないし、自分もできていない」に移行している。〈公正、公平、社会正義〉は、「大切に思わないが、自分はできている」の同じ分布にあるが、大切と実践の数値が減少している。〈勤労〉も、同じカテゴリーであるが、大切の数値が減少している。

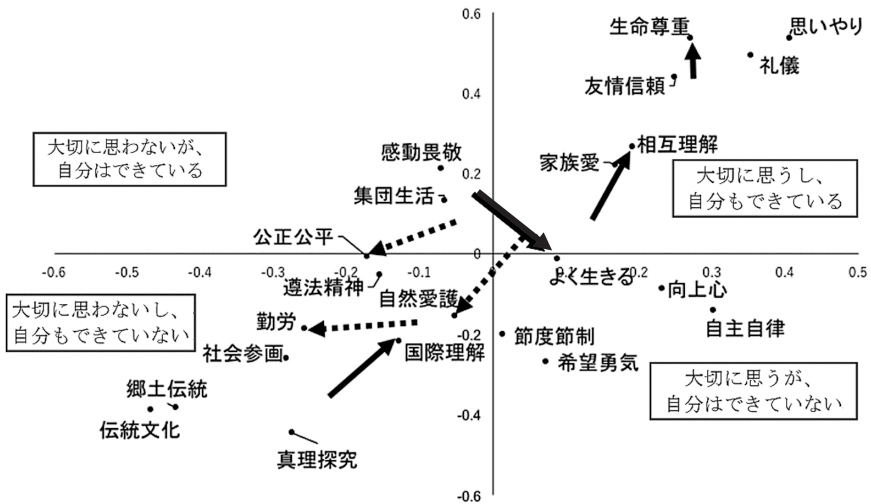


Figure 4. 道德的価値の大切さと自分のギャップ(大学生)

## 5. 考 察

### 5. 1 高校生・大学生が道德の授業に期待すること

道德の授業に期待することのニーズが高かったのは、いじめ問題への対応、情報モラル教育、討論・議論する授業、ICT 教材などを使った授業であった。“学習

者”である高校生や大学生が道德の授業に期待することは、これからの道德授業で求められる、子どもたちが生きる上で出会うさまざまな問題や課題を多角的・多面的に考え、主体的に解決するための授業に重なるものである。道德教育についての小・中学校教員のニーズ調査の「これからの道德の授業についてどのように考えますか」の問いの3つの因子のうちの第1因子は、道德に多様な視点や方法を取り入れる工夫としての「多様なアプローチ」であったが、“学習者”のニーズに応じて、教員は多様な視点や指導法を選択・実践することが求められる。

社会に出て役立つ道德の授業についての因子分析では、5因子を得た。第1因子は、教室の壁、学校の壁を乗り越えて、全体を構成するとしての「連携と連携」。第2因子は、討論、心理教育、クラスの問題、現代的課題などを取り入れた、問題解決的な授業をするとしての「授業の工夫」。第3因子は、新聞や自治体資料などを使って調べ学習をするとしての「調べ学習」。第4因子は、教材作成や資料の収集、授業中の資料提示などにICTの活用としての「ICTの活用」。第5因子は、道德番組や「私たちの道德」を使うとしての「教材の選択」である。

社会に出て役立つ道德の授業を進めるためには、“学習者”のニーズの把握という観点も必要である。“学習者”と“教授者”で、道德の授業を創り上げていくことがさらに必要になってくる。

## 5. 2-1 高校生・大学生が大切にしている道德の内容項目

大切にしている上位5項目を検討すると、〈思いやり、感謝〉、〈礼儀〉〈友情、信頼〉、〈自主、自律、自由と責任〉を上位に挙げている。上位5項目のうち3つの〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈友情、信頼〉は、B主として人との関わりに関する視点で、〈自主、自律、自由と責任〉は、A主として自分自身に関することの視点である。AとBの内容項目の意識を持って、自ら考え、他者と支え合って生きることが、これからの社会を生きていくために必要な力に繋がる。20歳以上59歳以下の調査の「成人の道德性に関する調査報告書」(2014)には、自分自身や身



のまわりの人に関する価値観は若い世代の方が大切だと思っている割合が高い傾向にあり、若い成人で発達するとある。

大切であると回答した割合が低い下位 5 項目は、高校生と大学生の内容項目ほぼ同じで、〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉、〈我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〉、〈遵法精神、公德心〉、〈社会参画、公共の精神〉などで、C 主として集団や社会との関わりに関することであった。

## 5. 2-2 高校生・大学生ができていると自己評価した道德の内容項目

高校生と大学生のできている内容項目が共通している。また、「大切に思う」上位 5 つと、「できている」上位 5 つは、〈友情、信頼〉、〈思いやり、感謝〉、〈礼儀〉、〈家族愛、家庭生活の充実〉とほぼ同じ項目で、B 主として人との関わりに関する視点である。

高校生と大学生ともできている内容項目の最上位に「生命の尊さ」を挙げており、高校生は、「大切に思う」「できている」の上位にあることから、大学教育で教えることを含めて、命の教育の推進が求められる。

全体的に、大学生の方が「できている」と回答された割合が高い傾向であった。自分を客観的に見ることや抽象的に考えることが可能になって、心理的な発達が安定したことによるものと思われる。また、全般的に「大切に思う」と答えた割合よりも、「できている」と答えた割合がかなり低い傾向にある。

できていると回答した割合が低い下位 5 項目は、高校生・大学生ともほぼ共通している。〈自主、自律、自由と責任〉、〈真理の探究、創造〉、〈社会参画、公共の精神〉、〈節度、節制〉、〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉で、A 主として自分自身に関することの視点であり、自分自身に関する自己評価は低くなるようである。

### 5. 3 道徳的価値の大切さと自分のギャップ

「大切に思い、自分もできている」には、〈思いやり、感謝〉〈礼儀〉〈生命の尊重〉〈友情、信頼〉〈家族愛、家庭生活の充実〉〈相互理解、寛容〉〈自然愛護〉などの B 主として人との関わりに関する視点と D 主として、生命や自然、崇高なものとの関わりに関することの視点が分布された。高校生・大学生の意識がむきやすく、身近なものや身近な人に対する実践の自己評価が高い傾向が見られる。

「大切に思うが、自分ではできていない」には、〈自主、自律、自由と責任〉〈向上心、個性の伸長〉〈希望と勇気、克己と強い意志〉などの A 主として自分自身に関することが分布された。自分自身についての実践の自己評価の低さは、自己意識の高まりや価値観の獲得などが影響していることも考えられるが、今までの道徳教育の課題を表しているかもしれない。教員が子どもたちに育てたい力の 1 位は、「善悪の判断、自律、正直、誠実、自由と責任」であることから、今後はさらに実践への意欲や態度につながる道徳教育の必要性が求められる。

「大切に思わないが、自分ではできている」には、〈感動、畏敬の念〉〈よりよい学校生活、集団生活の充実〉〈公正、公平、社会主義〉が分布され、教育や経験を通して身につけてきた道徳的価値と言えよう。

「大切に思わないし、自分もできていない」には、〈勤労〉〈遵法精神、公德心〉〈社会参画、公共の精神〉〈真理の探究、創造〉〈国際理解、国際貢献〉〈郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度〉〈我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度〉などの C 主として集団や社会との関わりに関することの視点が分布された。集団や社会との関わり方の視点は、意識や実践が低い傾向にある。高校生・大学生の道徳意識は、自分自身や他者との関わり方の視点と比較すると、集団や社会との関わり方の視点に課題を抱えていることがわかる。

高校生から大学生への発達の状況から見ると、〈生命の尊さ〉〈相互理解、寛容〉〈国際理解、国際貢献〉〈よりよく生きる喜び〉は、成長の様子が見られる。反面、〈公正、公平、社会正義〉〈自然愛護〉〈勤労〉は、大切に思わないし、自分も

できていない傾向への後退が見られた。

#### 5. 4 大学の道徳教育の科目への期待

大学の授業で今回のアンケート結果を取り上げ議論した。振り返りからは、「これからの道徳の授業の指導法や、テーマについて1から学ばなければと思いました。」「大切だと思わない項目も実はどれも大切で、ここを補うための道徳教育の在り方について考えなければならない。」「道徳教育は意味のあることだが、中・高校生の時に、すぐに身につけさせるのを目指すのではなく、年齢を重ね様々なことを経験して、考えられるようになっていけば良い。」などの学びがあった。ここにも大学の道徳教育への期待を見ることができる。道徳の授業は、学校種を問わず、質的転換を意識しながら、今後も授業者と学習者で作り上げていくことが求められるのではないだろうか。

#### 5. 5 今後の課題

今回の調査では、高校生・大学生の道徳や道徳の授業についてアンケート調査を行ったが、調査内容に限界もあった。インタビューなどで調査内容に多面的な視点を加えて、さらにより具体的な把握ができれば、学習者のニーズを反映した道徳の授業や教職課程の道徳教育の科目の設定が可能になるであろう。

## 引用・参考文献

- 浅見哲也(2017). 道徳の授業で大切にしたいこと. 日本道徳教育学会第 89 回大会  
プログラム・発表要旨集, 26-27.
- 松本美奈・貝塚茂樹・西野真由美・合田哲雄(2016). 特別な教科 道徳Q&A. 株  
式会社ミネルヴァ
- 文部科学省(2015). 小学校学習指導要領,13
- 文部科学省(2013). 今後の道徳教育の改善・充実方策について
- 小柴孝子・武田明典・村瀬公胤(2017). 道徳の教科化にむけての小・中学校教員  
のニーズ調査. 神田外語大学紀要, 29, 507-529.
- 東京学芸大学「総合的道徳教育プログラム」推進本部 (2012). 道徳教育に関する  
小・中学校の教員を対象とした調査—道徳の時間への取組を中心として〈結  
果報告書〉. 有限会社サンプロセス
- 東京学芸大学(2014). 「成人の道徳性と子どもの頃の体験に関する調査報告書」.  
株式会社タマタイプ
- 土田雄一・松田憲子(2017). 「特別の教科 道徳」の授業展開と評価, 武田明典編  
著, 教師と学生が知っておきたい教育動向, 北樹出版

## 謝 辞

- ・本研究調査実施に際し、千葉県立高等学校、千葉県内大学の協力を得たことに感謝の意を表します。